

文化

空前の哲学ブーム？

カント、スピノザ…講座が人気

哲学を分かりやすく教える講座やトークイベントが人気だ。ドイツの哲学者カントの著作の解説など、一見難しそうなテーマでも、企画者の予想を上回る申し込みがあり、幅広い聴講者が集まっている。哲学を身近なものと捉え、知的な刺激を得ようとする人たちが増えているようだ。

光文社は、東京ドイツ文化センターと共同で、講座「自由の哲学者、カント」をスタートさせた。講師は、哲学者の中山元さん。自ら翻訳した『純粹理性批判』（同社古典新訳文庫）などをともに、カントの述べる「自由」の意味について、毎月一回・全六回で解説している。写真。

募集直後から大きな反響があり、百人を超す申し込みがあった。「以前、文学作品の読書会を企画したが、集まったのは二十人くらい。今回も、その程度と予想していた。異例の人気です」と光文社。



最初の講義では、中山さんは「自由の概念が、カントの体系の基本」とした上で、「公的な自由」「私的な自由」「道徳的な自由」の三つの自由のあり方をじっくり解説した。参加者からは「子ども手当をカント的に見ると、導入の是非はどうですか？」などと斬新な質問も出ていた。

ジュンク堂書店新宿店で先月開かれた「スピノザ哲学原理」のトークイベントも、定員を上回る申し込み。『スピノザの方法』（みすず書房）を出した高崎経済大講師の國分功一郎さんが、批評家の千葉雅也さんとともに解説した。デカルトの考え方と対比し、ものを理解するとはどういつことか、などについて話題にした。

國分さんは「かみ砕いた分かりやすい話より、難しい理

論をそのまま話した方が、意外と興味を持ってくれる人が多いように感じる。未知のものに対する好奇心が刺激されるのでは」とみる。会場を訪れていた首都大学東京准教授の西山雄二さん（フランス語圏文化論）は「多くの人の注目が集まっているのは確かだと思う。『哲学の復権』ともいふような勢いを感じる」と話していた。（よ）